（様式1）　　令和　4　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2894400056		
法人名	社会福祉法人　さいか		
事業所名	認知症対応型共同生活介護　認知症高齢者グループホーム楓の杜		
所在地	兵庫県豊岡市竹野町林600番地		
自己評価作成日	令和　5年　2月　24日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	ps://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=t

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和5年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人スローガンが強い法人となろうであり、入居者様の健康・安全・安楽を第一に考えコロナ禍では有るが、太陽の光を身体に取り入れる行動と自立度の高い入居様には出来る事をして頂く取り組みをした。キッチンでの食器洗い・食器拭き・テーブル拭き・食材の調理・加工に取り組み、節分での手作り海苔巻づくり・正月の和凧作りの実践をした。作物を栽培する事にも力を入れ、胡瓜・トマト・水菜・イタリアンパセリ・パセリ・チュウリップ（花）も育て、自宅でされていたであろう事を提供した。しょうがい部署の管轄ではあるが池の鯉の餌やり・ヤギの餌やりも実践した。入居者様が自然と調和され鳥かごの居住空間にならないよう職員一同力を入れています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人は広い敷地内に、高齢者や障がい者の支援事業所を広く展開しており、日中は多くの利用者や職員が行きかう活気に満ちた場所である。地域との交流を広める為、敷地内レストランで利用者や地域住民が、一緒に食事やお茶を楽しむを事を心待ちにしていたが、コロナ感染防止の為現在は出入りを制限している。昨年、新たに少し離れた場所に、地域と利用者の憩いの場として、柴山事業所を開所している。利用者は、対外的な交流の機会はないが、菜園で花や野菜の栽培を楽しんだり、事業所周辺で飼っているヤギや鯉を見る事を楽しんでいる。職員は、利用者の楽しみを作る為事業所内でのレクリェーションや、食事作りの充実に努めている。今後も、利用者が笑顔で生き生きと暮らせ、活気がある事業所作りに努めていただきたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊岡市在住の方の利用が原則として運営行うが他市町村の方も現在利用中である。地域密着型であるが地域の垣根を越えて法人理念【絆】と共に施設運営活動を実践した。	法人の理念「絆」と「志」を玄関に掲げ、パンフレットで対外発信をしている。滞っていた事業所での調理作りを再開し、利用者が自分の役割として調理に参加している。鯉の餌やりや菜園での野菜や花の栽培等、出来る事をして楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度も地域の方の活動も自粛されており地域の方との交流も出来ていない。グループホーム内でもコロナクラスターが発生し事も重大な要因である。	コロナ感染防止の為、地域に出て住民と関わる事はないが、農作業に来た人が法人内の自販機にジュースを買いに来て、散歩中の利用者が挨拶をする等の関わりがある。併設の就労支援事業所の利用者が、グループホームの利用者と一緒に鯉に餌をやること等がよくある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度も地域の方の活動も自粛されており地域の方との交流も出来ていない。施設行事の春の桜の花見のご案内をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度もグループホームコロナ罹患者が職員・入居者様等発生し出来ていない。クラスター終息ごも職員家族罹患を含め取り組みが出来ていない。	コロナ禍前は、家族代表や市の高年介護課、社協や地域代表等で事業報告をしていたが、2年前から運営推進会議は行っておらず、書面開催もしていない。	会議開催はできなくても、事業所等に関する情報を記載し、関係者に送付をして頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険継続申請・区分変更申請等連携を取りながら取り組みを行った。高年介護課からのアンケート・講習の受講案内等にも参加できた。	市と、隣接する町の両窓口に出向いたり、メールでの情報交換をしている。グループホーム連絡会には加入していないが、コロナ感染者が出た時は、他の事業所から対応方法等の情報が届いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束をしないケアの実践にとり組めたと感じている。	身体拘束適正化委員会は法人で取り組んでおり、事業所職員1名が参加している。要望、苦情ハラスメント会議の名で毎月開催しているが、記録内容が曖昧であり、職員研修もしていない。	身体拘束適正化委員会の開催に加え、職員研修を開催し記録を残して頂きたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設運営の各種委員会を通じて虐待防止を啓発し、職員全体で防止に努めた。	虐待防止委員会も、身体拘束適正化委員会に同様の状況である。命令口調や指示的な口調など不適切な言葉に遭遇し注意する事がよくある。ストレスチェックはしている。虐待防止の研修はしていない。	定期的な会議開催と、年2回の研修会を行い記録を残して頂きたい。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度豊岡市高年介護課主査の権利擁護の講習には参加できなかったが、香美町主催の講習には参加できた。	居宅のケアマネが、町主催の権利擁護研修に参加したが、職員に対する伝達研修はしていない。事業所は、契約時に家族に情報提供するパンフレットの準備もしていない。	研修方法を工夫し記録を残して頂きたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には複数人で対応する事に努め、説明不足・理解不足の解消に努めた。時間も十二分に使用し理解をして頂く事に努めた。	入所のきっかけは、法人のデイサービスやショートスティ利用者もある。相談室にて契約書の説明をしているが、入院期間についての質問があり、柔軟に対応できることを伝えている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染症対策・コロナ罹患者が発生しており出来ない事が多くあり、家族様からの要望も出来る事・出来ない事が大いに有り、反映して行く事が困難であった。	利用者からは、散歩に行きたいとの要望があり敷地内を散策したり、飼っている池の鯉に餌やりをしている。家族からは個人的内容の要望があるが、コロナ禍で対応が難しい状況であり、、事業所の運営に関する内容もない。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染症対策の中で、出来る事には取り組めた。施設内行事の実施。	管理者の提案で職員が賛同し、ハンドベルを事業所で購入した。職員を中心に利用者も習って一緒に演奏し楽しんでいる。体調不安の職員に環境を変える事の大切さ等をアドバイスした。大雪で通勤が困難な職員は、法人の宿泊施設で寝泊まりし勤務した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からコロナ感染を発症させクラスターに居たり職員不足にも陥り非常に困難を有した。罹患したものが病院入院も出来ず（入居者様含む）、労働時間が非常に長くなってしまった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士取得の為、実務者研修受講者も募り受講段階である。高年介護課主催の但馬長寿の郷にて各種介護講習会への参加に努めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染症対策の為交流事業は実施していないが、コロナ罹患者の状況等は互いに情報提供している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には管理者・ケアマネ・看護師・リーダ−等が面接を行い、本人の意向や思いを聞き安心して利用して頂けるような取り組みをした。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時や面接日等に家人様からの要望・不安事を聞く為、複数人での対応に努めた。コロナ感染症対策の為十分に出来たい場面もあった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネがいま必要とされているツールを見極め主たる介護者様の協力も得ながら勧めて行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設周辺にも環境整備を行い、池の増設・木の植樹等を行い、楽しめる環境を提供し共に過ごせる時間を作り出せた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事前予約性の面会機会を設けコロナ感染症対策のもと短時間であるが希望有る家族様には幾度となく面会をして頂いた。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策の為、本年度も実施していないし、地域の方も情勢を鑑みられ対応された。	事業所に兄と妹が入所しており、お互いに行き来したり、ケアハウスに入所の連れ合いに会いに行く利用者もある。デイサービスの利用者との交流の機会もある。理美容の業者は、3か月に1回来所しており、ケアハウスの利用者と共に利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同して取り組んで頂ける活動を提案し、ともに取り組んだ。和凧制作・似顔絵制作・鯉の餌やり・家庭菜園の野菜の収穫・球根植え付け等。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設運営の中で柔軟に対応できるよう努め、退去された入居者様の家人様にも必要な情報は提供している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意向・思いの把握につてめているが、コロナ禍の環境下で満足されていない事が現実である。今後の社会情勢・環境変化を望む。	自分の所有している山が見たいと、事業所から出て確認する利用者や、月に1回は、自分の家に帰りたいとの思いを伝える利用者もある。入所時の個々の思いを聴き取った内容を、行事計画等に取り入れ反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴の把握に努めたが、十分とは言えない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	18名入居者様の日々の変化・状態には出来るだけ努め、状態変化が有る時は施設看護師・主治医等と連絡を取り合えた。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で有るが出来るだけケアの課題につては取り組んだが、十分なまでには出来ていない。	職員担当制を取っており、生活用品などの買い物や家族の要望などを聴いている。介護計画作成は、ケアマネが担当し毎月のモニタリングと、3か月毎のモニタリング評価をしているが、評価表の内容が曖昧で、評価の根拠に乏しく記載内容も不明瞭である。介護計画書が画一的で個別性が見えにくい。	全職員は介護計画書の支援内容を確認し援助する仕組み作りをして頂きたい。 介護計画は、出来る事や良い所を見つけて、利用者のQOL（生活の質）の向上につながる内容で作成して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個々の生活の中で実践結果・気づき・工夫等を記録に落とす努力はしたが、満足ができすべからく実践に反映出来ているところまでに到達していない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービス提供の思いは有るが、コロナ禍の環境下では制限がありすぎて実現できていない事が現実である。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度もコロナ禍で有り地域に出ることが出来ず支援は出来ていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月主治医訪問診療日に施設看護師・ケアマネ・管理者が身体の状態・病気症状の説明を行い医師より指示を頂いている。専門性の高い症状の時は紹介状にて豊岡病院等の専門医を受診している。	事業所として地域の3つの医療機関と契約しており、契約時に主治医として家族等に選択してもらっている。他科受診の際は、基本家族が付き添うが、家族の都合で職員が付き添う場合や状況によっては看護師が同行し症状の説明をする。希望により歯科の訪問診療も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職は配置していないが週2回勤務する看護師と施設常勤看護師と連携を取り入居者様のケアに努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関にはサマリーを提供し情報の共有を図り情報交換を実施した。コロナ禍なので入院時の面会は現在不可であり、家族様のみ面会は実施された。	日常の中で、職員が利用者の異変や状態変化に気付くことが多く、速やかに看護師と連携し対応する。早めの処置により入院回避につながり、重症化防止ができている。入院時は、主治医を通じた医療機関と迅速に連携を図り、早期退院のための体制も確保されている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り事前に家族様・主治医・施設看護師・サービス担当ケアマネ・管理者・とでムンテレを行い身体の状態を診て家族様の思い等を早い段階から協議し最善な方向・処置対応の提案をしている。	事業所での看取りを希望する家族等は多く、医療関係者を含むチームとして、利用者及び家族に丁寧に向き合っている。家族が共に過ごせる時間を設け、安心して最後まで過ごせるよう寄り添い見守ることを心がけている。家族と相談し、利用者の好きな音楽や歌を流したり、好みの物を用意して少しでも口に含んでもらうこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師・管理者・ケアマネ等が中心になり職員に指導している。嘔吐物の処理も看護師の指導にて実施した。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害を想定した避難訓練を実施し、避難指定場所まで実際に避難し、避難準備食を昼食に提供した。(アルファー米の炊き込みおこわ)	市からの依頼で、10月に風水害による自然災害を想定した訓練を実施した。その際は、事前に当日の流れや役割分担を想定し準備するなど、実践的な訓練を行った。終了後に備蓄のアルファ米を使った昼食を利用者も一緒に食した。この3月中には、夜間想定の火災訓練を予定している。	今後、感染状況をみながら運営推進会議を通じて地域との情報共有を図っていただきたい。

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に意識を持ち言葉かけに気を付けて実践した。	管理者は、利用者を尊重するにあたって大事なことは、まずは聴くことだと認識している。現在、各ユニットで調理するようになり、利用者と調理や下ごしらえ等の際の会話が増え、利用者の意見や意向が積極的に出されることでより理解が深まり結果、尊重した支援につながった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で出来る事はして頂いた。コロナ禍で出来ない事の方が多分に多くあり早く出来る環境を望む。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り個々の思い出生活をして頂けたと思いであるが、利用者様にとってすべてが良い支援であったとは分からない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様より施設に届けられた衣類を提供し、季節に応じた衣類選別の支援をした。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自立度が高い入居者様には食器の洗い物・下膳・テーブル拭き等をお願いした。（日々毎日）	これまで併設の厨房で調理していたが、今は各ユニットで調理し、利用者に手伝ってもらいながら職員も一緒に食している。1週間分のメニューを利用者の意向を参考にし、週末の昼食のみは固定して決めている。テラスで食事を楽しむこともあり、利用者と職員のコミュニケーショが深まった。今後は外食も予定している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が個々の利用者様の状態を日々把握し支援を行った。トロミ材も必要に応じ家人様の承諾をえて購入して頂き使用した。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度の高い利用者様には歯磨きの励行・うがいの励行を推奨し、そうでない利用者様には不織布を購入して頂き口腔ケアに努めた。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者様に合った支援を行った。自立の方・支援が必要な方・	基本、 トイレでの排泄を推奨している。利用者の状態に即した排泄用品の選択、例えば日中と夜間の使い分けをすることで費用面に配慮している。退院時リハビリパンツにパッドの使用が、利用者の様子をみながらトイレへの誘導やこまめな声かけから、徐々に入院前の状態に戻ったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌・排便コントロールの薬等の提供・服薬・万歩計を取り入れた歩行運動への参加の呼びかけに力を入れた。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の身体に応じた入浴支援を取り入れた。入浴前の体調の見極めにも注意を払った。	週2回を目安とした大まかな入浴スケジュールはあるが、声かけをし、利用者の意向次第では時間や日をずらしたり、タイミングを見て再度誘っている。利用者の身体状況により機械浴を利用することもあるが、安心して気持ちよく入ってもらえるよう職員が適時見守り、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活の中で個々の生活習慣に応じた支援に心掛けた。お部屋にテレビが必要になれば家人様に要請しテレビを届けて頂いた入居者様のおられた。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力体制にある薬局との連携をとり、誤薬をしないよな工夫（一包化）と薬の用法・効能等を期した概況表は必ず個々のファイルへファイリングした。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設周辺の散歩・レストランでの食事・鯉の餌やり・花壇の水やり・野菜の収穫とう季節に応じた支援を実践した。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で有る為施設周辺の散策・病院受診等の外出に留まっている。	併設のレストランでの食事やコーヒーを飲んだり、敷地内を散策したり、気候に応じて気分転換を図ったり、庭の野菜の手入れや収穫も楽しみとなっている。季節がら、レストランのテラスの桜を愛でるのを利用者は楽しみにしている。7・8月ごろには、今後の情勢をみながら外食や買物を予定している。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金の持ち込みは致しておりません。使用もしておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様・友人様からの郵便物はご本人に手渡ししています。電話も取次をしていますが代理人様が承諾された方に限定ています。又郵便物を返信される利用様には支援してます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有利用される空間は適宜清掃・消毒等行い感染予防に努め、季節に応じた花等を飾り季節感の表現を努力したが十分とは言えない。	室内は、木材が多様され木のぬくもりが感じられる。室内で過ごす時間が多くなったことから、利用者と共同の手作り作品を行事の時期に併せ、飾るようにしている。食卓テーブルや椅子は状況に応じて柔軟に配置し、利用者が落ち着いて過ごせるよう配慮している。気候に応じてテラスで過ごすことも多く、飼っているヤギや鯉の餌やりも楽しみにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者様の間で良い雰囲気になる居場所作りの提案をし、楽しく過ごして頂ける支援をした。時にはトラブルになる事も有ったがその場その場の対応にて支援をした。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り対応したが、季節感のある配慮が十分できていない。	利用者によっては、使い慣れた整理箪笥やソファ、テレビ、小物入れ等を持ってきており、趣味の手作り品や好みの物を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	築15年を経過した中で畳の居室からフローリングの居室へと改修してきたが、現在畳の居室が2居室あることと、個々の身体状態にあった寝具がない入居者様もあり今後の改善に努力して行く。尚、空調設備の不具合等も発生しており順次修繕を必要としている。		